

自然が子どもたちの意識を変える

今の自然をこれから残していくには、人がほんの少し手を貸して管理してあげることが必要だと思います。

これから、市民農園事業等に取り組んでいきますが、江川地区の田園風景を見に、多くの人に足を運んでもらい、自然の良さを理解してもらいたいと思います。

子どもたちと体験水田を実施したときのことで、泥だらけになりながら田植

えをした後で、「田んぼを見るのが楽しみ」と言ってくれたことや、自然観察会で、はじめてザリガニを手づかみして喜んでくれたことが特に印象的です。

近所なのに、初めて水田にきた子どもが多く、体験水田を機に自然とのふれあいを大切にしてくれればと願っています。

子どもたちに自然を残すために、これからも夏の暑さや草退治の重労働に負けず、減農薬栽培に取り組んでいきたいと思っています。

また、子どもたちの中から、一人でも多く、自然や環境に関わる職業に興味を持ってくれればと期待しています。



●(株)野田自然共生ファーム 取締役

伊藤 敏弘さん



自然と共生する農業を目指して



(株)野田自然共生ファーム ホームページ

(株)野田自然共生ファームでは、ホームページを開設しています。

ホームページでは、今までの江川地区ビオトープ整備における取り組みの紹介をするとともに、市民はもとより、東京やその周辺の都市住民も対象とした自然観察会などの参加者募集などを広報していきます。さらに、これから開設する予定の水田型市民農園の情報も提供していく予定です。

●ホームページアドレス

<http://www.nodafarm.jp/>



田んぼにニホンアカガエルも

まず、初期の段階での除草剤の散布や、減農薬農法および無肥料による地力を活かした無肥料栽培を実施しました。

また、市と(株)野田自然共生ファーム、自然保護団体(6団体)の代表が、19年2月、8月、20年2月とこれまでに3回、「農作業調整会議」を開催して、農作業の現況や今後の進め方、市民農園の事業展開などを、農業者の立場、自然を保護する立場でお互いに話し合ってきました。

さらに、田植え、除草、稲刈りを行うだけではなく、自然と共生する中での農作業を体験していただくため、自然観察会なども設定しました。

「自然を保護する中での農業」を実現するため、調整会議や自然観察会を行いながらの新しい試みの中、9月5日までに稲刈りを実施し、収穫された「ふさがね」は一般に出荷販売するとともに、福田第一小学校では学校で自然乾燥し、脱穀、もみすりを行った後、「太巻き寿司」作りに使われました。

今後、(株)野田自然共生ファームでは、担い手農家の育成や、農業者への研修、市民農園事業なども手がけていきます。